

大町市議会議員定数等検討委員会（第12回）会議概要

- 1 開催日時 平成25年8月21日（水）午前10時00分から午前11時04分
- 2 開催場所 市議会第3委員会室
- 3 出席委員 八木 聡（委員長） 眞嶋 強志（副委員長）
松島 吉子 太田 昭司
高橋 正 荒澤 靖
一本木基善（公募委員）
- 4 会議事項
 - （1）前回の会議概要確認
 - （2）先進地視察研修のまとめについて
 - （3）議員活動実態調査集計結果について
 - （4）検討内容のまとめについて
- 5 会議内容（決定事項等）
 - （1）前回の会議概要の確認
 - ・前回の会議概要について確認した。
 - （2）先進地視察研修のまとめについて
 - ・視察研修概要について確認した。
 - ・委員からの意見
（下呂市議会）
 - ・合併して間もないということもあり、意識の違いを感じた。
 - ・議員定数削減前後の違いについて、把握することができなかった。
 - ・議員定数を削減したことに対して市民から不満の声が全くないと議員が発言していたことが印象的であった。
 - ・会派制をとっていないということだが、具体的なイメージができない。議員数が少なくなるほど、会派のメリットは少なくなる。会派にもメリットとデメリットがある。
 - ・議員定数についての考え方をチラシで全世帯に配布したことについて、大町市でも議会だよりなどを活用して市民に周知する必要があると感じた。
 - （瑞浪市議会）
 - ・複数所属としたメリットは、あまり感じられなかった。そうせざるを得なかった状況を肯定しているように感じる。この委員会で結論づける際には、曖昧ではなく、市民に理解してもらえるものにしなければならない。

- ・大町市では財政規模からしても2常任委員会であってもよい。複数所属にする必要はない。
- ・複数所属よりも単独所属のようにシンプルであった方がよい。議論を深く掘り下げることができる。
- ・例えば、16名の2委員会単独所属となった場合、2年ごとに委員会を替れば、任期4年のうちに市政全体のことが分かるようになるという意見もあった。
- ・会社の例では、現場と本部にデスクがあり、会議のスケジュール調整が非常に難しい。シンプルに、ひとつに集中できるようにしたほうが良いのではないか。
- ・複数所属をイメージすると、かなり大変になる。シンプルにという意見は理解できる。
- ・複数所属では日程調整が大変になり、議員の守備範囲が3分の1から3分の2になる。議員定数を減らすのであれば、2委員会という考えである。

(3) 議員活動実態調査集計結果について

- ・集計結果3月から6月分を配布した。

(4) 検討内容のまとめについて

- ・これまで視察研修なども行い検討を進めてきたが、そろそろまとめる段階となった。
- ・全会一致が望ましいが、一致とならなければ多数の意見をもってまとめ、少数意見も付して答申としていきたい。
- ・前回会派内で検討していただいたが、改めて、大町市議会における望ましい「議員定数」「常任委員会の数」「常任委員会所属形態」及び「その理由」について、会派内で検討し、持ち寄ることとした。9月定例会中に会派でよく検討して、9月末までに事務局へ提出することとした。公募委員も個人の意見をまとめて提出することとした。
- ・今後のスケジュールについて、資料に沿って、委員長より説明する。
- ・講演会開催について、他の議員からも意見を聞き、引き続き検討することとした。

(5) その他

- ・9月定例会の全員協議会で報告を行う。
- ・次回の委員会は、10月3日(木)午前10時からの開催の予定とする。また、次々回の委員会は、10月21日(月)午前10時からの開催予定とする。